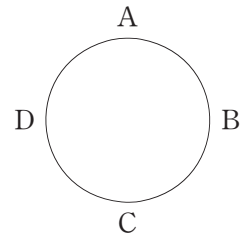


(判断推理)

【No. 〃】 ある幼稚園では、図のように4人ずつのグループで円卓を囲んでお弁当を食べる。ある日のA～Dの4人のお弁当に入っているおかずの種類を数えると、ハンバーグ、ベーコン巻き、春巻き、トマト、ブロッコリー、ポテトサラダの6種類だった。どの子供のお弁当にも、いずれか3種類ずつが入っており、向かいの人と同じおかずは一つもないが、隣の人とは同じおかずが少なくとも一つあった。4人のお弁当のおかずについて次のことが分かっているとき、確実にいえるのはどれか。

- Aには、ハンバーグとポテトサラダが入っていた。
- Bには、Aと同じおかずが二つあった。
- Cには、トマトと春巻きが入っていた。
- Dには、春巻きもブロッコリーも入っていなかった。



1. AとBのお弁当には、どちらもブロッコリーが入っていた。
2. AとDのお弁当には、どちらもハンバーグが入っていた。
3. BとCのお弁当には、どちらもハンバーグは入っていなかった。
4. BとDのお弁当には、どちらもポテトサラダは入っていなかった。
5. CとDのお弁当には、どちらもポテトサラダは入っていなかった。

(数的推理)

【No. 1】 ある工場が製造し、出荷する商品は、商品A、商品B及び商品Cの3種類であり、この工場の総出荷額は、各商品の出荷額を合計することにより算出される。2010年の商品Cの出荷額は26億円であった。

2011年のこの工場における総出荷額は2010年に比べて7%増加した。その際、商品Aの出荷額増加分の2010年の総出荷額に対する比率は1%、商品Bの出荷額増加分の2010年の総出荷額に対する比率は2%であり、また、商品Cの出荷額増加分の2010年の商品Cの出荷額に対する比率は10%であった。

2010年のこの工場における総出荷額はいくらか。

1. 55億円
2. 60億円
3. 65億円
4. 70億円
5. 75億円

(資料解釈)

【No. 1】 表1, 2, 3は, ある地域において20~70歳代の者を対象に実施した老後の生活に関するアンケートの結果を年齢階層別に示したものである。これらからいえることとして最も妥当なのはどれか。

表1 アンケート回答者の年齢階層別割合 (%)

年代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
割合	6.4	19.2	33.7	26.1	11.2	3.4

表2 質問Ⅰ：老後の生活に必要な生活費の準備を進めていますか？ (%)

	全年代						
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	
十分進めている	5.9	5.2	5.2	4.5	5.8	10.2	12.2
進めている	42.1	37.6	36.8	39.8	44.2	53.4	50.3
不十分	38.9	33.7	41.7	43.5	40.1	25.8	20.0
何もしていない	13.1	23.5	16.3	12.2	9.9	10.6	17.5
計	100	100	100	100	100	100	100

表3 質問Ⅱ：主にどのような手段で準備を進めていますか？

(質問Ⅰにおいて「十分進めている」又は「進めている」と回答した者が回答) (%)

	全年代						
	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	
生命保険・個人年金保険	43.7	58.0	52.8	47.5	40.0	32.4	23.1
預貯金	45.0	36.5	40.3	42.8	48.1	50.4	52.1
株・有価証券	9.0	4.3	5.9	7.9	9.6	12.9	18.6
その他	2.3	1.2	1.0	1.8	2.3	4.3	6.2
計	100	100	100	100	100	100	100

1. 質問Ⅰにおいて「不十分」と回答した30歳代の者がアンケート回答者全体に占める割合は約16%である。
2. 質問Ⅰにおいて「十分進めている」と回答し、かつ、質問Ⅱにおいて「預貯金」と回答した60歳代の者が、60歳代のアンケート回答者全体に占める割合は約5%である。
3. 質問Ⅰにおいて「何もしていない」と回答した者の数は、年代が高くなるにつれて少なくなる。
4. 質問Ⅱにおいて「生命保険・個人年金保険」と回答した50歳代の者が、50歳代のアンケート回答者全体に占める割合は20%である。
5. 質問Ⅱにおいて「株・有価証券」又は「その他」と回答した20歳代の者が、アンケート回答者全体に占める割合は5.5%である。

(自 然)

【No. 】 光に関する記述A, B, Cのうち, 妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

A : 電磁波は, 電氣的な振動と磁氣的な振動を繰り返す波であり, 光もその一つである。光のうち可視光線の波長は, テレビ放送に使用される電波よりも長く, X線よりも短い。

B : 光は, 波動としての性質だけでなく, 粒子としての性質も併せ持つ。例えば, 金属の表面に光を当てると電子が金属から飛び出してくる光電効果では, 光は粒子として振る舞う。

C : ある物質の中に特定の光を吸収する分子構造がある場合, 白色光を当てると, 物質がその波長の光を吸収するので, その残りの光の色が反射して見えることになる。

1. A
2. A, B
3. A, C
4. B, C
5. C

【正答 4】

(人 文)

【No. 〃】 江戸時代の文化や学問に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 元禄期の町人文芸の影響を受けた俳人松尾芭蕉は、西山宗因に始まる談林派の形式性を乗り越え、現実の世相や風俗を背景として自由な用語と奇抜な趣向を凝らした蕉風(正風)俳諧を確立した。化政期に至ると、与謝蕪村や小林一茶らが農民や町人の視点で、幕府や為政者を強く風刺した作品を数多く生み出した。
2. 近松門左衛門は仮名草子を母体とする浮世草子の作者として注目を集めたが、やがて井原西鶴らと共に人形浄瑠璃の脚本に転じた。その作品は義理と人情の板挟みに悩む人々の姿を克明に描いたことに特徴があり、『曾根崎心中』など当時の世相に題材を採った世話物と、『南総里見八犬伝』など歴史的な事柄を扱った時代物とに大別される。
3. 美術では、18世紀の中頃、喜多川歌麿が多色刷りの錦絵で各地の代表的な風景を描いて以来、浮世絵版画が急速に広まった。19世紀に入ると、これを受け継いだ葛飾北斎や歌川広重らによって、美人画のほか歌舞伎役者や相撲取りへと題材の幅が広がり、後にヨーロッパの印象派絵画へも強い影響を与えた。
4. 本草学や農学、医学など実用的な学問が発達し、天文学・暦学では渋川春海(安井算哲)が従来の暦の誤差を正して日本独自の暦を作り、数学では和算が発達し、関孝和が『発微算法』を著し、筆算による代数学や高度な数学理論を説いた。また、伊能忠敬は全国の沿岸を実測し、『大日本沿海輿地全図』の作成に尽力した。
5. 賀茂真淵や平田篤胤らによって元禄時代に始まった我が国の古典研究は、18世紀には本居宣長により「国学」として完成された。国学は日本古来の純粋な信仰を尊び『古事記』や『日本書紀』に流れる精神を深く掘り下げつつ、儒教や仏教という古くからの外来思想を融合させたものであった。

(社 会)

【No. 】 基本的人権に関する記述A～Dのうち妥当なもののみを挙げているのはどれか。

A：社会権は、財産権や経済活動の自由が、近代国家の成立期において、立憲主義の基本的要求として成立したのと時を同じくして認知された権利である。当初、「人たるに値する生存」のために不可欠の権利と観念されていたものが、国家に対する諸種の政策的要求として観念されるようになった。

B：生存権をめぐるのは、我が国では朝日訴訟や堀木訴訟などの裁判が起こされたが、最高裁判所は、日用品費の生活保護基準が日本国憲法第25条の理念を満たしておらず違憲であるとする原告側の主張を認め、その結果、生活保護基準は大幅に引き上げられることになった。最高裁判所は、判決において憲法第25条はいわゆるプログラム規定ではなく、直接個々の国民に対して具体的な法的権利を賦与したものであるとした。

C：日本国憲法第28条において、勤労者の団結権、団体交渉権、団体行動権が保障されており、これらの権利は労働三権と呼ばれる。我が国の公務員は、団体行動権を始めとする労働三権の一部が制限されている。また、一部の職種については労働三権が全て制限されており、警察官や海上保安官がその例である。

D：日本国憲法では、第13条の幸福追求権や第21条の表現の自由など、各種基本的人権が規定されているが、社会の変化によって求められる人権保障の内容も多様化しており、我が国でも憲法に明文の規定のない環境権、プライバシーの権利、知る権利など様々な新しい人権が主張されている。

1. A, B
2. A, C
3. B, C
4. B, D
5. C, D